新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ http://niigata-ksk.sakura.ne.jp/00home/00home.html

会　長　森　庄一
TEL　0258-72-2710

事務局　佐藤　博
新潟市江南区亀田水道町1-1-31
TEL　025-381-8141

会報編集委員会代表
遠藤俊一
新潟市西区青山1-13-28
TEL　025-265-4181

平成29年度評議員会を開催
森新会長を選任

理事長　**楡井　利幸**

平成29年度評議員会が４月15日（土）長岡ニューオータニホテルで開催された。

阿部会長は「昨年は東部地区中高年安全登山講習会（角田山）や新版・新潟１００名山の出版などの大きな仕事があり、会員の協力に感謝したい。また今年は県山協創立70周年の節目を迎える。一年間の行事が70周年にふさわしいような活発なものとなるよう期待している。」と挨拶した。

議員数61、出席24、委任状27、欠席（委任状なし）10、よって本評議員会が成立していることが宣言され、議長に渡辺茂氏（新潟ランタン会）を選出し、議案審議に入った。

１号議案（1.各専門委員会の事業報告・決算報告　2.平成28年度収支決算報告　3.監査報告）を審議、承認された。

２号議案（1.各専門委員会の事業計画、予算案　2.事業計画概要一覧　3.平成29年度収支予算書）について審議し、新潟日報事業社から本の調査執筆代金が入金されると思うが、予算案に盛られていないと指摘があった。記載が漏れていたため雑収入に計上するよう修正して、２号議案は承認された。

３号議案（役員改選）について立候補者を募ったが立候補無しのため、事務局長より執行部案が示された。会長に森庄一氏（（長岡ハイキングクラブ）が選出された。他の新役員も拍手で承認された。

新役員を代表して森庄一氏は「74才の私でよければ協会発展のために努力したい。県山協の事業は専門委員会の活動が柱となっているので今後とも各持ち場でしっかりやってほしい。そして県民からの評価が高まることを目標にやっていきたい」と決意を語った。

（新任の挨拶をする森会長）

続いて、以下の審議が行われた。

70周年記念行事については①第64回弥彦山たいまつ登山祭（（新潟県登山祭）に力を入れる。②新年会（平成30年1月27日長岡市）を創立70周年記念祝賀会とする。③記念登山の実施④今年度の主な協会主催行事は「創立70周年記念」と称して機運を盛り上げることとし、詳細は常務理事会で検討することとした。

また、第39回北信越国体（平成30年7月新潟開催）を成功させるため、執行部と競技委員会で協議し体制を組むこととした。

新潟楽山会端保幸雄氏から五頭山三ノ峰の小屋について「三ノ峰の小屋は利用価値が高いが老朽化が激しく、冬ともなれば積雪も多く危険な状態である。個別に動いてもダメなので県山協として建て替えの運動を起こしてもらいたい」との発言あり。これについては常務理事会で対応することとした。

以上をもって議事を終了し、議長は解任された。スムーズな進行をした渡辺茂氏に大きな拍手が送られた。

つづいて新規加盟となった三条おいらく山岳会の原田幸雄会長から挨拶をいただいた。

「昭和48年に設立された三条おいらく山岳会は、一時は会員数４００を超えた時もあった。現在は１６６人で名称からもわかるとおりまさに高齢者の団体登山が主である。アクシデント等もよくあるのでリーダー等のスキルアップ、レベルアップを常に

考えて講習会を開催してきた。今日の県山協加盟を契機にさらに安全登山に対する決意を固めている。皆様からご意見ご指導をお願いしたい。」と挨拶があった。

連絡事項

1.昨年の糸魚川大火に対する義援金は32団体・個人から約24万円が集まり、糸魚川市に贈呈した。市長からの感謝の手紙が披露された。

（佐藤事務局長）

2.新版・新潟１００名山の表紙の写真について問い合わせが多いので紹介された。場所は左記のとおり。

表面上段……駒ケ岳から中ノ岳

表面下段……巻機山・裏巻機新道

裏面上段……大源太山と谷川岳

裏面下段……火打山・天狗の庭

いずれも米山孝志氏の写真である。

もう一冊の「3時間50座」（仮名）の発刊は数か月遅れるようだと説明があった。

（佐久間副理事長）

以上をもって評議員会を終了した。

引き続いて懇親会が開催され、日頃疎遠になりがちな加盟団体の交流の輪が賑やかに広がっていった。

第20回新潟県クライミング選手権2017を終えて

副理事長　今井　浩二

去る4月22日、第20回新潟県クライミング選手権2017が国際自然環境アウトドア専門学校で開催された。

この大会は平成29年度の愛媛国体出場の予選も兼ねた大会である。昨年度から小学生の大会を別日とし、大会の効率化を図ってきたが今年度はさらにカテゴリーをビギナークラス、ミドルクラス、オープンクラスの3つのカテゴリーとして大会を行った。

これには次の意図を含んでいる。①ルート数を減らすことで競技進行をスムーズに行えるようにしたこと。②ルート数を限定することで隣のルートとの干渉をなくしセッターのルート作成の自由度を高めたこと。③高校生と中学生が両方の課題を登りあうことを避けることである。

課題を登りあうとは、少年種別と中学生を分けた場合、国体出場資格のある中学3年生は高校生のルートも中学生のルートも両方登らなければならなくなるうえ、公平を期すために他の中学生も高校生のルートを登ることにもなるということである。

そのため国体予選の趣旨が反映されるよう、成年男子と少年男子の予選に出場を希望するものは「オープン」に、成年女子と少年女子の予選に出場を希望するものは「ミドル」に出場するとした。

なお、昨年度までは他県には周知せずに大会を実施してきたが、セッターが苦労して作成した素晴らしいルートをできるだけたくさんの人に楽しんで欲しいということで、北信越の事務局宛に要項と申込書を送り、他県からの参加も募った。その結果35名の出場者を得ることができた。

競技の進め方は昨年同様にリードを予選・決勝とせず、2本の課題を登り、その合計で勝敗を競い、ボルダリングは4課題で勝敗を競った。

リード競技

最初の競技はリードで9時40分にリード競技が、ビギナー、ミドルが同時スタートで開始された。

ビギナーは新潟の選手が8名、長野5名、福井2名の15名の参加であった。1本目は最も右側の垂壁に近い壁を利用したルートであった。垂壁とは言っても足の置き場が安定せず前腕の持久力がどんどん奪われるルートとなっていたため、垂壁のルートにありがちな「全員完登」という状況にはならず、上位はほぼきれいに順位がつく結果となった。その中でも福井の重房、新潟の岩谷が完登し、個人順点を1.5点ずつ分け合った。

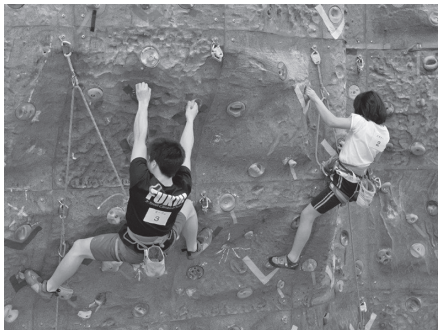
2本目は、左の傾斜がきつくなるルートとなり、難易度もアップし、残念ながらビギナーからは完登者を出すことはできなかった。それでも予選で見事完登した福井の重房が完登直前の37番目のホールドまで高度を稼ぎ、ビギナークラスでリード競技1位を勝ち取った。同じく1本目で完登した新潟の岩谷は重房と同じ37番のホールドに手を伸ばそうとしたところでフォールしてしまい、惜しいところで優勝を逃してしまった。

ミドルは国体予選の成年女子と少年女子が出場するカテゴリーで、国体出場を狙う人にとっては勝負のかかったク

ライミングとなる。１本目は唯一新潟の栗田（中学３年生、少年種別）が完登で、片桐（成年種別）が２位（37手）、滝澤（成年種別）が３位（36＋）となった。栗田は中学生３年生ながら国体常連の先輩を抑えての１位となった。

２本目はオープンのカテゴリーの１本目と同ルートとなり難易度も高くなってくる。そのようなルートであるが１本目完登の栗田は２本目も完登かと思わせる安定したクライミングでどんどん高度を稼いでいった。ところが６分間の競技時間が過ぎてしまい35手のところで競技終了となってしまった。しかし、結果を見ると、35手まで高度を稼いだ選手がなかったため、２本目も第１位ということで、栗田がミドルの部の第１位を勝ち取った。２本終えた結果、ミドルでは第２位瀧澤、第３位片桐と成年女子の選手が栗田に続いた。

オープンの部は１本目からいきなり5．12ｃから始まる高い技術が要求される戦いとなった。そのような厳しいルートではあったが上位の選手は素晴らしいパフォーマンスを発揮した。田中修太（少年種別）と渡辺颯海（少年種別）の二人が完登を果たし、それに中学２年生の佐久間祝が続いた。田中に関してはその活躍は報道等で紹介されているが、渡辺は今年中学３年生で少年種別として国体に出場できる条件を満たしたばかりであり、佐久間は現在中学２年生ということで、来年やっと出場の権利を得ることができるという若い力の台頭に驚かされた。



オープンの部の２本目は完登こそ無かったもののなんと中学３年生の渡辺が他の選手を抑え２本目のトップを飾った。２本目第２位には国体常連の南雲がつけ先輩の意地を見せた。リード競技１本目、２本目の合計で、渡辺が１位、田中が２位、佐久間が３位となり、若い世代の活躍が光った。

ボルダリング競技

ボルダリングは昨年度と同様４課題、１課題あたりの持ち時間は４分間で実施した。カテゴリー毎に課題は異なるがオブザベーションは全種別同時に行い、各種別の競技間に時間をあまりはさまなくても良いようにした。混乱を避けるため登る課題をあらかじめ説明し、選手が課題を把握した上でオブザベーションのタイマーをスタートした。本国体と同様「ところてん方式」（第１課題４分間の競技→４分間の休憩→第２課題４分間の競技→休憩・・・・・という方式）での実施であった。

ボルダリングの順位の決定方法は、①完登した数、それが同数の場合、②完登に要したトライ（アテンプト）数、それも同数の場合、③取ったボーナスの数、それも同数の場合④ボーナスを取るのに要したトライ数で決定される。

ビギナークラスは４課題全て完登したのが岩谷と古澤の２名であった。それに要したアテンプト数も８と同数であった。当然ボーナス数も４と並んでいたためボーナスを取るためのアテンプト数で勝敗が決した。岩谷が全ての課題を最初のアテンプト取っていたため４アテンプト、古澤は６アテンプトであったため、僅差で岩谷に軍配が上がった。

ミドル予選は少年女子と成年女子の代表を決める戦いであり、これまで新潟の代表として国体で戦ってきた成年選手と国体出場できる年齢に達

ALways Security OK
ALSOK
新潟綜合警備保障㈱
〒950－8633　新潟市東区小金町１－17－20
TEL 025－274－1965　FAX 025－271－3445

魚沼の里
www.uonuma-no-sato.co.jp

魚沼の酒
八海山
www.hakkaisan.co.jp

した少年女子が同じ課題で戦うためどれだけの力を持っているのか確認できるカテゴリーだけに見ごたえのあるカテゴリーである。そのため課題が難しめの方向に振られたためか、完登数に関してみると最高で２課題の完登と他のカテゴリーに比べて少なかった。しかし選手たちは一課題一課題集中してアテンプトを重ねていった。２課題を完登したのは瀧澤、石橋（福井）栗田の３名で、滝澤と石橋が両課題とも一撃で落としたためアテンプト数で並んだ。ボーナスのアテンプトで差がつき瀧澤がミドルのボルダーで１位を勝ち取った。

オープンのカテゴリーも各種別の代表決定とともに成年種別と少年種別の力量を測ることにも興味がもてるカテゴリーである。４課題を完登したのは久貝と南雲の２名で両者とも成年種別の選手である。南雲は国体の新潟代表の常連であり、久貝は国際アウトドア専門学校の１年生ということで成年種別の２名が４完という結果となった。二人の勝敗は久貝が全ての課題を一撃で登ったためアテンプト数で久貝が南雲を抑えてオープンクラスのボルダリングを制した。少年種別を見ると田中が３課題完登で３位、渡辺が２課題完登で成年種別の海藤に続いて５位に入った。

総合成績

総合成績は次のようになった。この結果を元に福井で行われる第38回北信越国民体育大会の代表者、愛媛で行われる第72回国民体育大会の代表者を選考していくことになる。

ビギナー総合成績（上位５位迄）

氏　名	カテゴリー	リード順位	ボルダ順位	順位合計	総合成績
岩谷　健汰	新　潟	2	1	3	1
古澤　憲章	長　野	3	2	5	2
重房　桜介	福　井	1	5	6	3
武田　洸太郎	新　潟	4	4	8	4
布施　海翔	新　潟	6	3	9	5

ミドル総合成績（上位５位迄）

氏　名	カテゴリー	リード順位	ボルダ順位	順位合計	総合成績
瀧澤　愉未	新潟成年１位	3	1	4	1
栗田　湖有	新潟少年１位	1	3	4	1
片桐　麻由子	新潟成年２位	2	4.5	6.5	3
石橋　響	福　井	5	2	7	4
江塚　桜子	新潟少年２位	4	8	１２	5
辻谷　海人	福　井	6	6	１２	5

オープン総合成績（上位５位迄）

氏　名	カテゴリー	リード順位	ボルダ順位	順位合計	総合成績
久貝　悠太	新潟成年１位	4	1	5	1
田中　修太	新潟少年１位	2	3	5	2
渡辺　颯海	新潟少年２位	1	5	6	3
南雲　純太	新潟成年２位	5	2	7	4
海藤　隼	新潟成年３位	6	4	１０	5

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク＆山スキー
Mountain & Outdoor Parr Mark
パーマーク
長岡市西宮内2-97（長岡市役所裏通り）
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30～PM8:00水曜定休
http://www.parrmark.co.jp

登山・スキーの専門店
ヒトと地球のインターフェイス
ICI石井スポーツ
新潟店・長岡店
新潟店　新潟市中央区堀之内南1丁目16-52　TEL(025)241-5134㈹
営業時間／10:00～19:00
長岡店　長岡市古正寺町110　TEL(0258)89-6901
営業時間／11:00～20:00（火曜定休日）

平成２８年度　第３回理事会議事概要

日　時　平成29年３月25日（土）午後１時～
場　所　長岡市さいわいプラザ（長岡市幸町２－１－１）
出席者　19名（役員総数26名）　欠席者　７名

議事概要は以下の通り。

阿部会長から、今年は県山協創立70周年にあたる年であり、平成29年度の行事に取り入れていきたいと挨拶があった。

猪又理事から昨年12月の糸魚川大火に寄せられた義援金について御礼が述べられた。

佐久間副理事長から、新潟日報事業社の「新版新潟100名山」は、３月30日に書店発売となる。好調な売れ行きが期待される。事業社から本会に支払われる調査費は、関係各方面に支払いをし、約40万円が残るとの報告があった。

この収入については、協議の結果、前回（2010年）発刊のときと同様に本会計収入に計上することが適当との結論に至った。

続いて、議事の審議が行われた、

１．各専門委員会の平成28年度事業報告と決算報告について各委員長から、本会計について事務局長から報告があり、承認された。

関連して、以下のような意見があった。

①　自然保護委員長等がトレランの主催者と面談して、自然保護を訴えたということだが、今後トレラン協会との交渉や意見交換は誰がやるのか決めておかないといけない。

②　糸魚川のマイコミ平の入山申請については、所定の手続きをとって、調査研究のために入山するならば、一般の観光目的ツァーとは別枠で入山できるので、問い合わせてみるのもよい。

③　自然保護委員会の山岳写真展は、単なる山岳風景写真展になっていないか。県山協の広報活動の一環としての写真展であってもよい。

④　競技委員会とりわけ競技委員長の選手強化のための労力や時間的負担が大きくなっている。いま「どうしろ」ということではないが、理解しておくことが大切だ。

⑤　山形県小国山岳会が、今年11月頃に国際山岳医・医学博士の大城和恵さんを講師に迎え研修会を予定している。本会に何らかの呼びかけがあるかも知れない。具体的な話があったなら、考えていこう。

⑥　角田山々頂のバイオトイレが飽和状態である。水洗トイレ等の清潔なトイレにできないか関係各方面に働きかけを行いたい。

２．各専門委員会の平成29年度事業計画と事業予算について各委員長から、本会計について事務局長から説明があり、承認された。

事業計画について、以下の意見があった。

①　弥彦山たいまつ登山祭と「山の日」の取り組みについて

日本山岳会越後支部では、全国山の日協議会評議員の梶正彦氏と日本山岳・スポーツクライミング協会会長の八木原圀明氏を来賓として迎える。山の日協議会に後援の申請をしたい。

本会の創立70周年の節目の年でもあり、本会として盛大にこの日を祝えないか。

また、総務委員会には、八木原会長の交通費と宿泊費の支出をお願いしたい。山の日記念行事には日山協からの10万円が使えるので、弥彦山岳会と協議の上申請願いたい。

②　創立70周年記念行事について、下記のことについて評議員会で承認をうる。

・平成30年１月の新年会を記念祝賀会とする。
・弥彦山たいまつ登山祭は広く呼びかけを行い、各加盟団体の参加を促す。
・具体的な諸活動については、常務理事会で検討する。

③　平成30年度開催の第39回北信越国体新潟大会については、実行員会を立ち上げ万全の態勢で取り組む。

３．平成29～30年度の役員選出について

次期会長については、遠藤家之進正和顧問を中心とする８名の会長選考委員から、森庄一氏（長岡ハイキングクラブ）を推薦したいと発言があり、評議員会に提案することとした。

他役員については、執行部案に一部修正を加え、評議員会に提案することとした。

４．各員会の決算について、会計監査を監事が実施し承認された。

以上

平成29年1月第328号続編

藤島　玄 著

冬山覚書 8

（新潟県山岳協会1961）

●　一冬、一口も雪を食わずに済まされるか。これは意志の問題で、生理的のものでない。ガツガツ食いだしたら切りがない。奴さん参ったナとリーダーはマークしているぞ。渇きが嫌なら、食後に口から出るまで、水筒二本も微温湯を飲んで出れば、その日は水不用となるのを知っているか。水の飲み方、こいつは難しい。夏山覚書に致します。

○　パーティ間の通信連絡の方法を研究しているか。面倒のことはない。雪玉をぶん投げてもよいが、要は集合、停止、前進、危険、戻れ、救助を乞う、トンチキ馬鹿ヤローなどは、きっぱり定めておいて習熟しておく。スキー杖の一節を短く切ると独特の音色で鳴りもよいのを知っているか。

●　リーダーが、スキー帽の垂れか、アノラックのフードを被らぬうちに、無断で被ったり、手をポケットへ突込んダリしていないか。こんな奴は、スキー杖で思い切りぶんなぐってやればよい。フードのために視界は狭まり、聴覚は鈍る。判断は不正確、行動は敏捷を欠き、飛んでもない処へすっ飛んで行き、呼んでも聞こえず、付ける薬は無い。

○　行動中に、突拍子もない奇声、クシャミ、アクビ、ヤッホーなど驚愕させたことはないか。二度やったら無音でどやしつけるに限る。脚を止めたいための愚劣な嘆声、三度やったら、ラッセルさせて追い上げれ。行動中は自然であり、真面目でないと、責任の重いリーダーは、教える先に怒ることがある。怒られても仕方あるまいがな。

（次号に続く）

今後の行事予定

平成29年６月17～18日	岩登り講習会（研修会）　新発田市杉滝岩
平成29年７月６～８日	第56回全日本登山大会　北海道・羊蹄山
平成29年７月８～９日	第１回安全登山講習会研修会
平成29年７月25日	新潟県「山の日」記念行事
	第64回弥彦山たいまつ登山祭・第60回高頭祭　弥彦山
平成29年７月29～30日	北信越国民体育大会　福井県

編集後記

▲昭和二二年六月二八日に新潟県山岳会が結成され、昭和二九年に新潟県山岳協会と改称して、今年は七〇年、節目の年を迎えました。

▲当初の加盟団体は一九団体であった。五五年には八一団体、現在は六一団体となっている。ピーク時から二〇団体も減少したことは寂しい限り。

▲近年、高齢となって活動できなくなって解散する団体が多いようだ。若い人が山岳会に入ってこないという現状もある。個が重んじられる時代の影響であろうか、集団での行動が嫌われる。

▲七〇年連綿と続いてきた協会ではあるが、人口減少社会となって将来にに不安を抱かざるを得ない。若い人たちが活動の中心となる協会であって欲しい。

▲今年の協会行事は、七〇周年記念行事と銘打って実施される。この節目の年の行事に、多くの加盟団体の岳人から参加いただいて、協会の更なる発展につなげていただきたいと思う。

（遠藤　記）